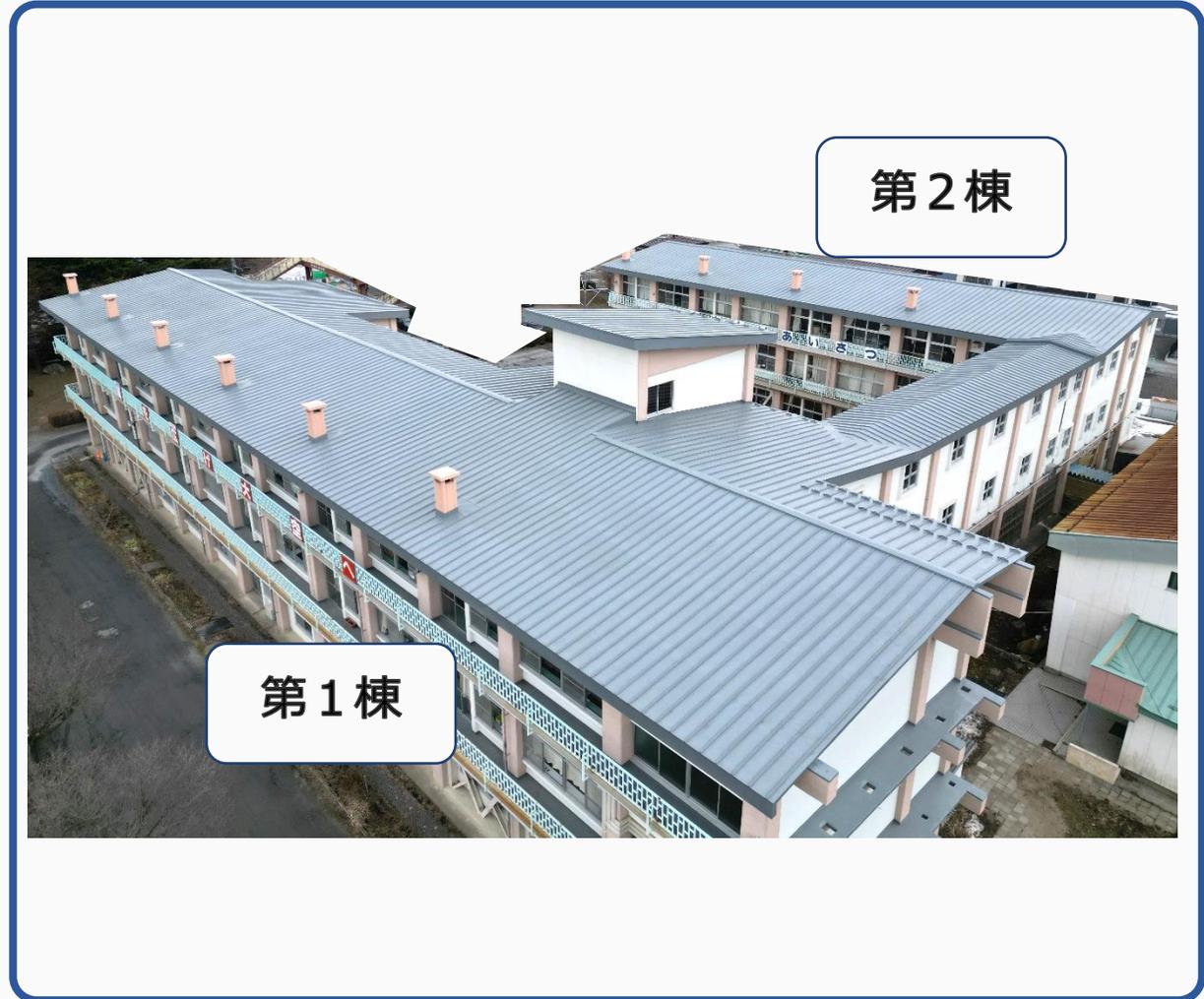
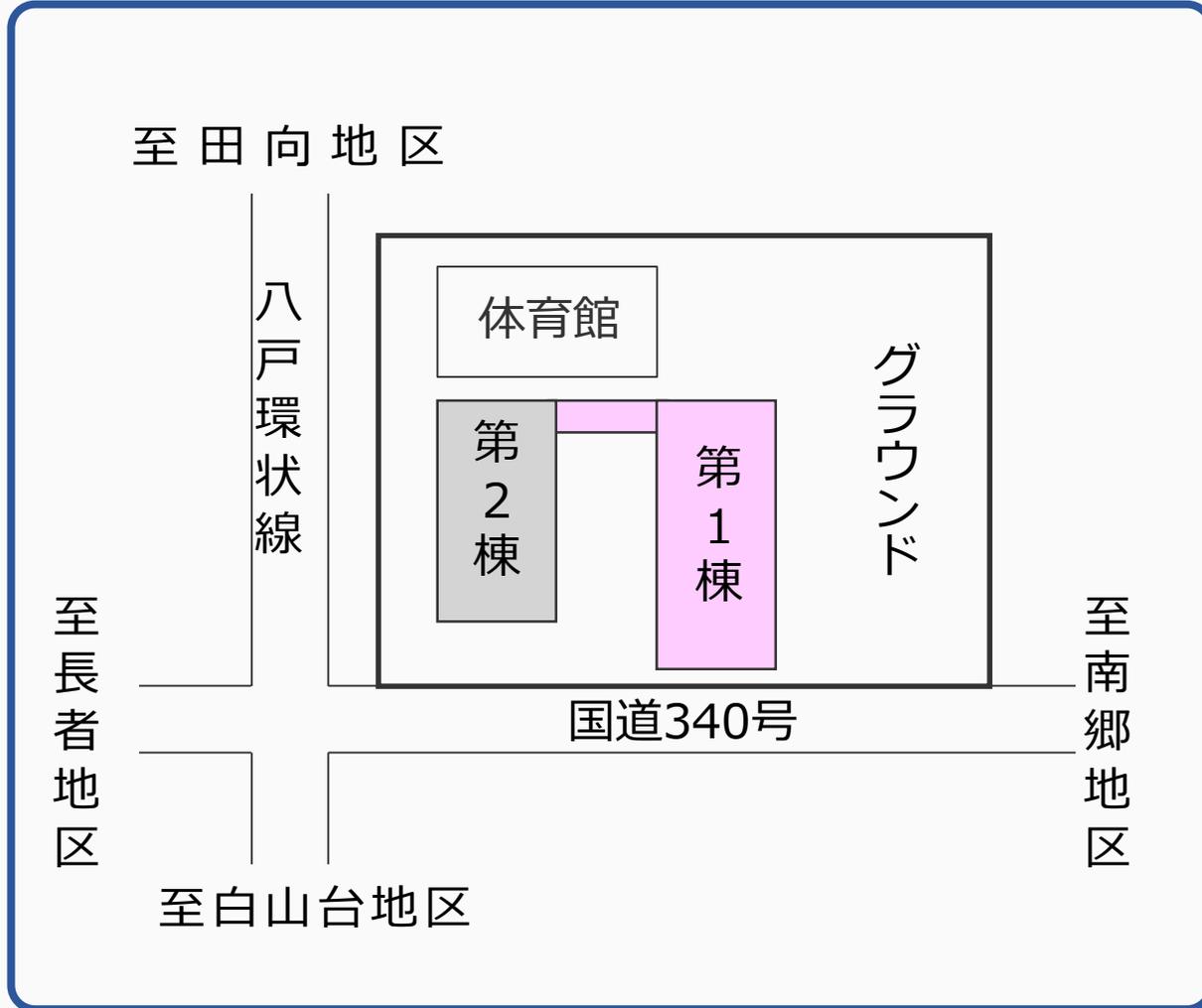


図南小学校校舎屋根のたわみ（凹）について



屋根の状況

第1棟



3階屋根の状況
最大60mmのたわみ

第2棟



3階屋根の状況
最大90mmのたわみ

簡易測定器



全体写真



床に固定

屋根スラブに固定

屋根スラブのたわみが進行すると、
右側の赤いラインが下がる

メモリ部分拡大写真

たわみの要因

考えられる要因

- ・ 設計上、屋根を支える梁が少ない
- ・ 校舎竣工から現在までの 47 年間に、自然災害（震度 5 弱 以上が 10 回発生、幾度かの大雪）による影響

子どもたちの命最優先

- 学校は、子どもたちが家庭の次に多くの時間を過ごす場所であり、安心・安全な環境が求められる。
- 監視体制を継続していくだけの対策では、子どもたちの命は守れないと考え、速やかに抜本的な対策を講じることが必要。

図南小学校校舎安全確保のための検討

【対策における判断基準】

緊急かつ子どもたちへの影響を最小限にするため、早期に解決できる方法であること。

| 想定ケース | 課 題 |
|-------------------------------|----------------------------------|
| ①他校との統合の場合 | ・ 相当の時間を要するため、緊急対応には馴染まない |
| ②近隣の廃校利用の場合 | ・ 旧番屋小学校は、教室数が不足 |
| ③大規模改修(屋根架替及び補強) | ・ 概算総事業費 約39億円 校舎供用開始まで5年 |
| ④校舎の建替(RC・S・W造) | ・ 概算総事業費 約24億円～32億円 校舎供用開始まで3年 |
| ⑤校舎の建替 (新校舎建設は、設計・施工の一括発注) | ・ 概算総事業費 約28億円 校舎供用開始まで2年 |

以上のとおり、本校の敷地内を利用して、最も工期が短くなる新校舎の一括発注による⑤建替（2階建て）とするのが最善

児童の安全確保のための対策スケジュール(案)

スケジュール (案)

① R7年4月に、第2棟の教室を第1棟へ集約し、児童の安全を確保

※第1棟のたわみが進行した場合には、緊急避難先として、近隣の学校と連携し、余裕教室の活用を実施

② R7年度から2階建ての新校舎建設工事に着手

③ R9年度 新校舎開校

④ R9年度以降、現校舎解体（第1棟、第2棟とも）

⑤ 現校舎解体後、新グラウンド整備

新校舎及び新グラウンド整備完了後のイメージ

